

平成 28 年度第 4 回佐久市スポーツ推進審議会 会議録（要約）

日 時：平成 29 年 2 月 13 日（月）

午後 7 時 00 分～8 時 00 分

場 所：佐久市総合体育館 会議室

出席者 9 名

欠席者 0 名

事務局 4 名

1 開 会

2 あいさつ

3 議 事

（1）佐久市スポーツ推進計画（案）について

ア 経過報告

イ パブリックコメントについて

ウ 計画（案）について

【 承 認 】

（2）答申（案）について

【 承 認 】

（3）その他

4 そ の 他

（1）今後の日程について

5 閉 会

【質疑・意見等】

（1）ウ 佐久市スポーツ推進計画案について

委 員 基本目標の 1－8 の順番ですが、今オリンピックが 3 番目に来ているが、これは、100 年に一度あるか無いかの事なので、もう少し市民に近い方から 1 番にしていくのがいいのではないかと考えます。自分の意見としては、1・5・6・4・7・8・2・3 になるのではないかと感じます。全体的にはいいと思いますが、市民に近い事柄から考えるとこうなると思います。

事務局 基本目標の順番につきましては、理事者とも相談しながら進めてまいりました。大きく 4－8 番につきましては、この計画策定で参酌しています国と県の

計画、これに記載されております目標を市に置き換えまして文言等修正した内容になっております。1－3番が佐久市の特徴的な目標として、位置づけるものとして配置したところであります。1の「健康で活力あるまちづくり」、2の「スポーツを通じた交流による賑わいのあるまちづくり」、ここに注目しまして、スポーツの担う役割として大きく位置づけております。

3番も佐久市の特徴的な取り組みとして、東京オリパラに向けた事前合宿誘致等に力を入れていくという思いをこちらに挙げさせていただいております。

委員 基本的にいいんじゃないですかね。よくまとまっていると思います。

事務局 捕捉させていただきます。オリンピック・パラリンピックにつきましては、この計画が5年計画でございますので、その期間内に終了しております。交流は続いておりますが、一部の施策は終了しているという形になろうかと思いません。オリンピックが終わりましたも、レガシーとしてその後のスポーツ振興が図られるかと思いません。

委員 新しいまちづくりに生かしていくという考え方の中で、競技施設とか関係施設に関してはバリアフリー化が進んでいると思うんですが、健常者のアスリートだけではなくパラリンピックの選手なども関わってくると思うので、障がいを持った方々にやさしいまちづくりまで目を向けて、例えば、車いすで使えるようなトイレがどこにあるとか、公共施設は当然ですが、一般の街なかの施設で、それが無いと、スポーツを通じたバリアフリーのまちづくりができればいいのかなという感じがします。それは2番のスポーツを通じた交流による賑わいのあるまちづくりになると思います。

事務局 市内のバリアフリー化につきましては、宿泊施設に問い合わせさせていただく中で、浴室などは少ない、対応が難しいというところがあります。

社会福祉協議会では、バリアフリーに関してマップを、料理屋さん、公共施設、体育施設、いろいろな民間施設も含めまして、現在作成中でありまして、そうしたところをリンクさせていく中で、体育施設を検索する中で、近くにはこんな施設があるなどができればいいかなと考えております。バリアフリー化は市の施設では進めてはおりますが、予算の関係もございまして一度に大きくは進まない状況がございまして、民間の方たちとも協働していかなければいけないと考えております。

委員 委員のいうとおりですね。体育施設運営では、そういうところも含めて観光協会とも密な連携で進めていかなければならない。

委員 基本目標の8の2番にも関連して進めていくという方向でよろしいですかね。

事務局 情報提供ということで進めていきたいと思います。

委員 モータースポーツやスカイスポーツなど、とてもお客さんが集まってくるような、そんなスポーツ大会に教育委員会も関わって、佐久市の活性化になればいいなという気がします。

事務局 交流人口の創出というのがございますので、いろいろな大会でいろいろなところから人が来ていただける、皆さんが見てみたいというようなスポーツを、どこかで実施していかなければならないので、推進計画の中で盛り込んでおります。

ただし現在、市民の興味等が多岐にわたっておりますので難しい所ではあると感じております。昨年女子サッカーの皇后杯の試合がありましたが、周知がうまくいかなかったかどうかというところがありますが、全部で4試合ありましたが、男子の1試合の観客数に満たなかったという状況もございます。

いろいろな企画をしていかないと、皆さん見に来てくれないのかなと感じております。その中でいろいろな大会等に取り組んでいきたいと考えております。

委員 基本目標の7番の一流のプレーに触れる機会の充実になる訳ですね。

事務局 基本目標の2番の交流人口の創出と合わせてということになります。

委員 5番のライフステージに応じたスポー活動の推進で障がい者が体育施設を使いやすい環境整備や障がい者スポーツ知識の普及というのを載せていただいで良かったと思います。絶対的な人数が少ないので、企画されても人数は少ないと思うんですけども、こうしたところも是非忘れずに進めていただきたいと思います。

事務局 実際に車いすスポーツ等で体育施設を利用していただいておりますので、利用しやすい環境を整えていきたいと考えております。また、国の障がい者スポーツ施策に関する所管替え等もあるようですので、そこにも注視しながら、取り組んで参りたいと考えております。

委員 基本目標の4のところ、子どもの体力や学校と連携した多様なスポーツの機会というものもあるのですが、37Pの小中学生を対象としたスポーツ教室・大会について、自分が親として参加した中で、ドッジボールやサッカー、駅伝に参加する子どもが少ない、児童生徒の絶対数は減っているんですけど、それ以外に原因がなんなのだろうと思うところです。大会に参加する・しない、好き・嫌いの2択になると思うんですが、好きにさせること、が大

事なところだと思うんです。計画書にある多様なスポーツ機会の充実というところで、親子や家族でスポーツに取り組めるというもの、親が好きになって子どもと一緒にいく機会は大事だと思います。

佐久市では具体的に何を想定していますか。

事務局 今年度望月で親子スポーツ教室を開催しました。また雨宮病院の理学療法士の方にご協力をいただき、バスケットやバレー、野球、バドミントンなどいろいろなスポーツをやりながら、きっかけづくりをする教室を実施しております。親御さんが来られない場合のあり、そこら辺の課題はあります。

委員 親御さんが子どもを預けるのではなく、一緒に楽しめればいいなと思う。佐久鯉マラソンにはファミリーの部がありますが、昔こどもで参加した子が、今は自分の子供を連れて参加している。そういうのが大事だなと思って見させていただいています。こういうある意味財産を大切にしていきたい。

事務局 子どものときにスポーツ経験があると、大人になって子どもにやらせるし、ご自身もやられるという傾向が強いということがありますので、子どもの頃の機会の充実は大切だと思います。

委員 先日小学校から依頼があって、2年生90名を一堂に会しての何か楽しめる活動を、とのことでお手伝いをしました。45分間でしたが、校長先生が、子どもたちがこんなに生き生きと楽しくするのを久々に見ました。普段の学校の場面とは違ったいいところが発見できたとおっしゃってました。いろんな形でスポーツ推進委員も関わっていければいいなと思いました。

委員 望月の教室でファミリースポーツというのがありますが、第2・第4週で、親子で来て、自分の好きなことをやる。スポーツは競技性に偏ると嫌だという方がたくさんいる。何が楽しいが自分でやってみて初めて発見できると思う。その楽しさで続けていければいい。ただ現実やはり親は置いて行って子供だけ参加というのが多いです。また親の都合で、いろんなことをさせている面がある。水泳や塾など、その中で、子どもがやりたくても親の都合が悪いといけなくなるが出てきている。

また、地元の小学校・中学校にいろいろなスポーツの機会に派遣して応援しているが、部活等に関することもあり、学校との関わり方に今は課題がある。できるだけ、地域の子どもは地域で面倒を見なければ難しいのかなと思う。

* 計画（案）について承認いただいた。

* 答申（案）について承認いただいた。